

太陽解決社 Good times & Bad times 第一話

とある家

鏡台に向かう女(さな) 鏡に映る女(千秋)

さな「きゃーーーーーー」

さな「私がいったい何したって言うの？悪いのはモテないあなたでしょ・・・」

迫る幽霊

さな「ほら・・・卵焼き、まだ楽しみにしてるんだから・・・」

迫る幽霊

さな「わかった、返す。あんな男返す、ちようど金払いも悪くなってきたところだし・・・」

男 「さなどうした？」

さな「・・・あなたもこの家もいらぬ、さようなら」

立ち去るさな 立ち尽くすノボル

なの人に解決しましたと告げているが幽霊が立っている(世の中どうなってんだ・・・まあ、いい時もあれば悪い時もある、こうやって世界は動いているんだろう)

ドアから修也

修也「ただいま」

京介「(NA)こいつは阿倍修也。高校時代からの親友・・・」

椅子に座る修也

修也「いやー参った・・・あんなデカイ犬の散歩なんてもうこりこりだよ」

京介「そんなこというなよ、お得意さんなんだから」

修也「じゃあ次は恭介、お前が行けよ」

京介「(NA)対外のこととは解決できる。なぜならこの世には摩訶不思議など存在しない」

ノボル「また、あの女の霊か・・・」
振り返るノボル 立っている千秋

実景 月

夜空に浮かぶ月

ノボル「ぎゃーーーーー」

太陽解決社

太陽解決社

京介「(NA)あなたのお悩み解決します！こちら太陽解決社です(看板をつけている恭介)俺の名前は泉田京介。解決屋を名乗る何でも屋。時にはもてない女のデート相手(不細工な女と買い物)偽者心霊現象など(部屋の片隅、印

女がドアのところ立っている

京介「(NA)はずだった・・・」

望 「あ・・・」

修也「はい、どういったご用件でしょうか？」

望 「あ、あの・・・雇ってもらおうと思ってきたんですけど・・・」

修也「はあ・・・雇う？」

京介「すいません・・・うちは人を雇う程のゆとりがないもので・・・」

望 「・・・アルバイトでかまわないんですけど・・・駄目でしょうか？」

修也「わりーな・・・そんなに仕事がある訳じゃないのよ・・・」

後ろの扉から客の男が来る

男 「力ない声ですいません・・・あの・・・悩みを解決して欲しいんですが・・・お金はいくらでも払います・・・」

京介 「どんなお悩みですか？」

望 「取り付かれてるんですね・・・しかも・・・女の人に・・・」

京介 「はあ？」

修也 「何言ってるの？お前？」

男 「おい！」

京介 「あつすいません・・・彼女・・・うちの人間では・・・」

男 「あんた・・・なんでわかったの？」

京介、修也 「えっ・・・えー？」

男 「どうして、女に取り付かれてるってわかったんですか？」

望 「後ろに女の人が立っていたもので・・・それで」

男 「助けてください・・・お金ならいくらでも払います・・・何とかしてください・・・」

望 「すいません・・・私・・・このスタッフじゃないので」

望 「すいません、あの・・・」

修也 「お茶お持ちしました」

京介 「よし、準備していくぞ！」

修也 「えー？受けたの？」

4

道

三人が道を歩いている

修也 「おい京介、大丈夫なのかよ？お前幽霊なんて退治できんのかよ？」

京介 「大丈夫。こつちには強い見方がいるんだから・・・しかもいくらでも払うって言ってるし(ニヤツ)」

望 「あの・・・」

修也 「ちよつとお前黙ってるて」

京介 「金の問題じゃないだろ、お化けだけ相手は」

望 「あの・・・」

京介 「あの・・・」

男 「えっ」

京介 「採用！今すぐ採用！」

修也 「えー!?!」

京介 「まあまあ、あの、おかけになってください」

男 「あ・・・はい」

京介 「君も座って悩み聞かないと」

望 「は、はい・・・」

京介 「修也君、お茶持ってきて！」

修也 「えー!?!?!」

京介 「で、ご相談というのは？」

男 「(頭を掻きながら)もう眠れないんです・・・毎晩女の霊に悩まされ、お金で解決できるならいくらでも・・・(京介の手を握りながら)お願いです、何とかしてください！私の悩みをなんとかしてくださいー！」

京介 「はい、大体的内容はわかりました。この太陽解決社がお悩み解決します！」

5

家の前

修也 「しっかりし、薄気味悪い家だなー。これは鉄板で出るな」

京介 「その辺はどうなんだ、助手君」

望 「います。相当つよいい女の霊です」

修也 「まじかよ？俺ここに残るわ。お前、丈夫か？」

京介 「そんなの怖がってどうすんだよ」

修也 「お前は冷静だな」

足がガクガクしている京介

<p>7</p> <p>祈禱</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「あそう、望み君頼んだよ」</p> <p>男 「お願いします、助けてください！」</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「大丈夫だって・・・ほら、俺達にわからないことって世の中に沢山あるんだよ？修也君」</p>	<p>7</p> <p>祈禱</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「あそう、望み君頼んだよ」</p> <p>男 「お願いします、助けてください！」</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「大丈夫だって・・・ほら、俺達にわからないことって世の中に沢山あるんだよ？修也君」</p>
--	--

<p>6</p> <p>家</p> <p>京介 「こんにちは、太陽解決社です。問題の家はこちらですね。僕達がきたからには安心です！幽霊は今日中に退治しま</p>	<p>6</p> <p>家</p> <p>修也 「お前本とはビビってんじゃん」</p> <p>京介 「笑顔で」そんなこと無いよ。寒いだけです」</p> <p>修也 「大丈夫かよ」</p> <p>京介 「(二人で振り向きながら) 今回は頼んだよ、助手君！」</p> <p>助手の顔白目</p> <p>二人 「ぎゃあああー！ー！」</p> <p>望 「大丈夫ですか？私霊視してるとき目が白めなんです。大丈夫ですか？おきてください」</p> <p>修也目が開く</p> <p>修也 「ぎゃあああー！ー！」</p> <p>望 「ぎゃあああー！ー！」</p>
--	--

<p>7</p> <p>祈禱</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「あそう、望み君頼んだよ」</p> <p>男 「お願いします、助けてください！」</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「大丈夫だって・・・ほら、俺達にわからないことって世の中に沢山あるんだよ？修也君」</p>	<p>7</p> <p>祈禱</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「あそう、望み君頼んだよ」</p> <p>男 「お願いします、助けてください！」</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>男 望</p> <p>望 「あ、はい・・・」</p> <p>京介 「大丈夫だって・・・ほら、俺達にわからないことって世の中に沢山あるんだよ？修也君」</p>
--	--

<p>6</p> <p>家</p> <p>京介 「こんにちは、太陽解決社です。問題の家はこちらですね。僕達がきたからには安心です！幽霊は今日中に退治しま</p>	<p>6</p> <p>家</p> <p>修也 「お前もはや金のことしか頭に無いだろ？大体お化けなんているのかよ、この世に」</p> <p>京介 「お客様がいる限りお化けもいるんですよ」</p> <p>修也 「今回は本当に解決できんのかな？」</p> <p>京介 「大丈夫だって。こっちは望がいるんだから」</p> <p>振り向く修也</p> <p>立ち上がる二人</p> <p>京介 「どうだい、望君。調子のほうは？」</p> <p>望 「は、はあ・・・」</p> <p>目の前には塩まみれの男</p> <p>修也 「おい、京介！」</p> <p>再びカメラ前二人</p> <p>修也 「おまえ、塩まみれじゃないか、あの本当に大丈夫かよ」</p> <p>京介 「お前は何にも知らないんだな。昔からさ、塩で歯を磨いたり体洗ったり健康にいいんだよ」</p> <p>修也 「お前これ、逆にクリーニング代とか請求されないだろう</p>
--	--

10	回想	<p>望 「ちょっとお待ちください、今それを聞くところです」</p> <p>修也 「こえー」</p> <p>望 「あなたのお名前はなんて言うんですか？」</p> <p>女の霊 「大池千秋」</p> <p>望 「大池・・・千秋さん・・・心当たりありますか？」</p> <p>ノボル 「はい・・・あまりにもしつこい女だったんで・・・」</p> <p>望 「どうしてこの人を恨んでいるんですか？捨てられたからですか？」</p> <p>千秋 「二人つきりでお話したい、過去の恨みを・・・」</p> <p>望 「みなさん出て行ってください、霊が二人つきりで話したがつてます」</p> <p style="text-align: center;">ノボルと千秋が家にいる 食卓</p>
----	----	--

9	部屋	<p>京介 「望くんとおお？」</p> <p>ノボル 「いったいぜんたいどの誰なんですか？」</p> <p style="text-align: center;">男と望が向かい合わせで座っている その横女の霊</p>
8	実景家	<p>望 「これからよく話し合おうと思います」</p> <p>男 「話し合うとは？」</p> <p>望 「今ここにいるんで、説得しようと思います」</p> <p>男 「さっき玄関から出てったって言ったじゃないですか」</p> <p>修也 「戻ってまいりました」</p> <p>京介 「とにかく、お話し合い始めましょう」</p> <p style="text-align: center;">実景家</p>

12	部屋	<p>さな 「初めまして、北さなです・・・ダツサイ女・・・よく女やれてるね」</p> <p>ノボル 「そーなんだよ、女の魅力ゼロって感じ。俺もよく我慢してきたよ」</p> <p>千秋 「ひどい・・・」</p> <p>さな 「早く荷物まとめて出てってよ・・・そうだ、お腹すいたんだけど、あんなにか料理作れる？」</p> <p>ノボル 「そうだ千秋、卵焼き得意だろ？作ってくれよ。さな全然</p>
11	実景 月	<p style="text-align: center;">ピンポーン</p> <p>ノボル 「あ、来た」</p> <p style="text-align: center;">夜空に浮かぶ月</p>

千秋 「ノボル君最近帰り遅いね、六本木のレストランそんなに大変なの？」	ノボル 「・・・そうだよ、忙しいんだよ(心の声)つうるせーな、この女。いい加減気づけよブス！」	千秋 「そっか・・・」	ノボル 「ちよつと大事な話があるんだけど」	千秋 「何？」	ノボル 「おれ好きな女ができちゃってさ、別れてくんない？」	千秋 「え、どういうこと？」	ノボル 「だからあ、好きな女できちゃったんだよ。別れてくんない？今日からこの家住むから、とつとと出ってよ」	千秋 「どうして・・・」	電話しているノボル	ノボル 「もしもし・・・さな？千秋別れてくれるっていうから、早く家来て。うん、待ってるね」	千秋 「私どこにいけばいいの？」	ノボル 「しらねーよ」
-------------------------------------	---	-------------	-----------------------	---------	-------------------------------	----------------	---	--------------	-----------	---	------------------	-------------

<p>15</p> <p>ノボルの家</p> <p>望 「コレで安心して新しい彼女が見つけれられますね(嫌味っぽく)」</p> <p>ノボル 「え？」</p> <p>京介 「では、今回解決料なんですけども、三十万円ほどになっております」</p>	<p>14</p> <p>部屋</p> <p>望 「ひどい・・・最低な人たち」</p> <p>泣いている千秋</p> <p>望 「千秋さん、こういうのはどうですか？除霊したフリをしてとことんまで追い込んでやるっていうのは」</p> <p>千秋 「え？」</p> <p>望 「私にまかせて・・・除霊終わりましたよー！」</p>
--	--

<p>13</p> <p>家実景</p> <p>二人 「あっはっはっは」</p> <p>夜家実景</p>	<p>料理作れないからさ、頼むよ」</p> <p>千秋 「・・・どこがいいの、こんな女の？」</p> <p>さな 「はあ？スタイルから何から全部私のほうがいいじゃん、こんな田舎くさいダサい女。馬鹿みたい」</p> <p>千秋 「あなた達のこと・・・恨んでやる」</p> <p>飛び出す千秋</p> <p>顔を見合わせるノボルとさな</p> <p>さな 「ちよっと、卵焼き作ってよ・・・あーあ、行っちゃった。ノボル、あの女のどこが良かったの？」</p> <p>ノボル 「さあ、いったいぜんたいどこが良かったんだろうねえ」</p> <p>二人で笑いあう</p> <p>二人 「あっはっはっは」</p>
--	--

<p>18</p> <p>京介自宅</p> <p>京介 「ただいま」</p> <p>ほのか 「お帰り、お兄ちゃん」</p> <p>京介 「今日は参っちゃったよ。お化けが見えるとか言うやつがきてさ」</p> <p>ほのか 「もう、変なの連れてこないでよ」</p> <p>京介 「ほんととか嘘かわからないけど、何か見えるらしいよ」</p> <p>ほのか 「やだー、怖いー」</p> <p>京介 「おお、穂のか今日の飯はなんだこれ」</p>	<p>17</p> <p>家実景 夜</p> <p>望 「まあ、幽霊が見えるだけで、退治できないんですけどね」</p> <p>修也 「えー！ー！ー！？」</p>
---	--

<p>16</p> <p>太陽解決社</p> <p>いつものようにジャン卓を囲むメンバー</p> <p>京介 「三十万は儲かっちゃったな」</p> <p>修也 「イヤーお化け退治っていいね、なあ望君」</p> <p>望 「これは私のおかげで儲かったお金ですよね・・・」</p> <p>京介 「じゃあ・・・半分ぐらいいい？」</p> <p>十五万渡す京介</p> <p>十五万手にして望み</p>	<p>修也 「えー？たけーよ！」</p> <p>男 「ありがとうございます。三十万円で幽霊がいなくなるなんてありがとうございます。本当にありがとうございます」</p> <p>修也 「えー？払うのかよ？」</p> <p>京介笑顔</p>
---	---

20

とあるバー

男女がいちやいちや

男 「まづいよ」

女 「大丈夫。勇気出して。私の事愛してないの？」

男 「愛してるけど、やっぱり怖いよ」

女 「大丈夫、探せやしなから」

19

家概観

ほのか「お兄ちゃん」

ほのかの顔にプリンを吐き出す京介
顔には京介の吐き出したものがついている
満面の笑みで

京介「これ、お前うに井じゃないか？豪華だなあー。いっただ
つきまーす！・・・うっめ。うに井なんて何年ぶりだよ」
ほのか「笑顔でうにだと思うでしょ？お兄ちゃん・・・プリン
に醤油かけたただだよ」
京介「ぶーーー」

21

家族

家族が解決社のピラを見ている

京介「(N.A)俺達は解決屋を名乗る何でも屋だ。この世に摩訶
不思議なんて存在しない。いや、多少は存在する。あな
たのお悩み解決します！こちら太陽解決社です！」

続く

ノボルとさなの後ろに千秋が写っている写真